



# 町長の行政報告を お知らせします

八峰町6月議会定例会が17日から19日までの会期で開かれ、町長の行政報告や一般質問、補正予算の議案審議などが行われました。町長の行政報告の中から主なものをお知らせします。

## 春の行政協力員会議 街路灯のLED化について説明

春の行政協力員会議を4月17日に開催し、今年度の町の主要事業を説明して、ご理解とご協力をお願いしました。中でも、街路灯のLED化や自治会育成支援事業の実施状況などは、直接自治会に関係する事業であることから、出席した自治会長の皆さんも大きな関心を寄せていました。



## 定住自立圏形成へ向けて 今後本格的な協議へ

定住自立圏構想についてですが、本構想は、人口5万人程度以上で、かつ、昼夜間人口比率が1以上である市が中

## 菌床シイタケ平均単価 前年を10・3円上回る

次に、菌床シイタケの生産実績について報告します。菌床シイタケの栽培は、現在、9農家が25棟で栽培しているほか、峰浜培養が5棟で栽培し、合計30棟で栽培が進められています。

平成26年度の販売数量は599・9トン、販売金額が6億2580万円となっており、100グラム一パック当たり平均単価は、104・3円で、25年度の平均単価94円を10・3円上回っています。また、秀品率は64%と品質、収量も比較的安定して、順調な生産・販売状況となっています。昨年度の販売先は、東京や横浜などの青果市場が7社、大型デパートやスーパーなどが10社のほか、直売も行っています。

## 総合教育会議を設置 町長と教育委員会が連携

次に、総合教育会議についてですが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正されたことにより地方公共団体の長は、首長と教育委員会が連携して効果的に教育行政を推進していくために総合教育会議を設置することとなり、5月15日に開催したところで、始めに設置要綱について協議し、総合教育会議は「町の教育、学術及び文化

心市となつて近隣町村と圏域を形成し、連携・協力して、大都市圏への人口流出防止、定住促進、地域活性化等を図ろうとするものです。国では財政的な支援等を行いながら取り組みを進めており、本地域は、能代市と山本郡三町で形成する圏域となります。

まち・ひと・しごと創生法が施行され、総合戦略の中で本構想が重要な施策として位置づけられていることを踏まえ、これまで、担当者レベルの勉強会を行ってきましたが、少子高齢化や人口減少が進む中、「関係市町が必要に応じて多様な分野で多様な形の連携により、行政ニーズに対応する」定住自立圏構想は、人口減少社会における新たな広域連携の形として、地域活性化の有効な手段の一つであると考え、年度内の圏域形成協定の締結を目指し、関係市町との本格的な協議に入りたいと考えています。

## がん検診受診率は伸び悩み コールリコールで受診率向上を

がん検診の平成26年度受診状況がまとまりましたのでご報告します。乳がん検診の受診率は対前年比2・9%減の59・3%、子宮がん検診は3・3%減の50・9%となっています。肺がん検診の受診率は対前年比1・5%減の42・2%、胃がん検診は1・7%減の32・6%、大腸がん検診は0・9%増

の振興に関する総合的な大綱の策定をすること、「町の教育を行うための諸条件の整備、重点的に講ずべき施策を行うこと」、「児童、生徒等に被害が生じたとき、又は生ずるおそれがある場合等に講ずべき措置をとること」を協議し、事務の調整等を行うこととしました。大綱については、総合振興計画の見直しを一年前倒しして、今年度中に新計画を策定する予定であるため、総合振興計画の教育に関する部分を大綱として準用することとしました。

今後必要に応じて会議を招集し、町の教育について、町と教育委員会の意思疎通を図りたいと考えています。



## チャレンジデーで金メダル獲得 町民の皆さんに感謝

次に、チャレンジデーについて報告します。今年度は5月27日に行われ、県内の全市町村が取り組みました。当町は昨年に引き続き2回目の挑戦でしたが、結果は昨年の参加率を6・1%上回る65・9%の成績で、目標だった金メダル獲得ラインの61%を上回るとともに、対戦相手の北海道鷹栖町（たかすちょう）に2・3%の僅差で勝利することができました。これはチャレンジデー実行委員会のみならず、自治会、町内事業所、各種団体、小中学校等の取り組みなどに加え、町民の皆さんから快く参加していただいた結果であると感謝申し上げます。このイベントを一過性に終わらせることなく、「毎日がチャレンジデー」として、今後も継続的な運動による町民の健康づくりを推進していきたいと考えています。



の42・3%となっています。昨年度に比べ、全体的に受診率は伸び悩んでいます。その中で大腸がん検診がわずかながら伸びているのは、昨年度受診を勧めたコールリコール事業を実施した効果と考えています。このコールリコール事業は、同一検診項目を数年度継続することで、受診率向上につながるなどの研究結果が出ています。このため今年度は、引き続き大腸がん検診について実施するほか、乳がん検診と胃がん検診においても実施することとしています。

このほか、3年度目となりました検診料ワンコインの500円を継続し、また託児や受診者の家族で見守りが必要な方がいる場合はヘルパーを派遣するなど、今後も受診しやすい環境を整えて受診率の向上を図り、早期発見早期治療ができるよう努めます。

集団検診では、検診項目のうち心電図検査が昨年度に引き続き、秋田県立脳血管研究センターと連携して、希望者全員が無料で受診できるようになっています。

八峰町をモデルとして、心原性の脳梗塞の要因をチェックすることで、脳卒中の発生率がどう変化するのか調査研究し、今後の治療に役立てるものです。昨年度の検査結果などについては、広報5月号の「健康はっぼう21ひろば」欄に、秋田県立脳血管研究センターの佐々木先生が寄稿されています。